観光調査法Ⅰ

科目ナンバリング　STS-101
選択必修　　2単位
花井　友美・小笠原　永隆・飯塚　　遼

1. 授業の概要（ねらい）

「観光」という現象を理解するのに調査は有用な手法である。しかし、適切な方法で実施しないと、誤った結論を導くことがある。本授業では、調査とは何か、調査の意義を説明したうえで、様々な調査技法（質問紙調査、インタビュー調査、観察など）を概観するとともに、特に質問紙調査の特徴と実施方法について説明する。その上で、受講者は、演習形式で仮説検証型調査を前提とした質問紙を作成していく。
※学修効果の促進のため、授業は講義形式と演習形式をミックスして行う。演習はグループワーク形式で行う予定だが、新型コロナ感染症の状況によっては個人ワークに変更する場合もある。

2. 授業の到達目標

質問紙調査の特徴を理解する。
・質問紙調査が有効な場面を説明できる。
・質問紙調査の実施手順を説明できる。
仮説検証型調査を前提とした質問紙を作成できる。
・仮説を立てることができる（調査テーマは事前提示）。
・仮説を検証するために必要な質問項目を作ることができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業内に実施する小テスト、小レポート、演習課題等 70%
レポート課題 30%

4. 教科書・参考文献

参考文献
轟亮・杉野勇　（2017）『入門・社会調査法〔第3版〕: 2ステップで基礎から学ぶ』　法律文化社
小田利勝　（2009）『社会調査法の基礎』　プレアデス出版
張　長平　（2014）『観光分析計量的アプローチと応用』　古今書院

5. 準備学修の内容

授業後には、授業内容や授業中に指示された事項について復習すること。
演習の前には準備課題（例：質問紙調査のテーマに関する情報収集、質問項目案の作成）を提示するので、事前に準備課題を行うこと。

6. その他履修上の注意事項

学修効果の促進のため、授業は講義形式と演習形式をミックスして行う。講義時と演習時で教室が異なるので注意すること。
演習形式の回は3クラスに分けて実施する。第3回目の講義時に演習クラス分けの発表を行う。
講義時の私語及び雑談は厳禁。
演習時は活発な議論及びグループワークへの積極的な参加を期待する。
受講者の内容理解度などにより、授業の進捗具合は変更の可能性がある。
第14回目授業をオンラインで実施する予定である。ただし、授業の進捗状況により変更する可能性がある。その場合は、授業内で連絡する。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション【講義形式】
【第2回】　様々な調査法の特徴【講義形式】
【第3回】　質問紙調査の特徴／クラス分け発表【講義形式】
【第4回】　インタビュー演習（1）～アポイントから実施までの手順のシミュレーション【演習形式】
【第5回】　インタビュー演習（2）～半構造化インタビューの体験【演習形式】
【第6回】　調査テーマの発表／先行研究の調査【講義形式】
【第7回】　仮説検証型調査【講義形式】
【第8回】　仮説の設定（1）～アイデア出し【演習形式】
【第9回】　仮説の設定（2）～アイデアの文章化【演習形式】
【第10回】　質問項目の作成の仕方【講義形式】
【第11回】　質問紙の作成【演習形式】
【第12回】　質問紙の作成／結果の予想【演習形式】
【第13回】　調査対象の抽出と調査票の配布・回収方法【講義形式】
【第14回】　データの入力の仕方と単純記述統計／分析の意義【講義形式（オンライン授業）】
【第15回】　総括【講義形式】